

課題名⑦： プルトニウム 238、239+240 の土壌濃度マップの継続的作成

代表研究者：池内委員(日本分析センター)

1. 調査の目的

- 第1次調査においては、福島第一原子力発電所から 80 km圏内の 100 地点で採取された土壌について、プルトニウム 238、239+240 について核種分析を実施した結果、福島第一原子力発電所周辺の北西方向でのみ、非常に微量であるが、事故由来と思われるプルトニウム 238、239+240 が確認された。
- 他方で、福島第一原子力発電所から 80～100km 圏内については調査を実施できていないほか、各調査箇所では採取された土壌(各箇所最大 5 地点で土壌を採取)について 1 地点しか確認できていない。
- そこで、本調査では、これまでに調査を実施していない福島第一原子力発電所から 80～100 km圏内についても調査を実施するとともに、これまでにプルトニウムが検出されている箇所の周辺メッシュについても調査し、拡散状況を詳細に把握する。

2. 調査内容

プルトニウムを化学分離し、シリコン半導体検出器を用いて、アルファ線を測定する。

3. 調査地点

前回、プルトニウムが検出された箇所、セシウムに対するストロンチウムの比率が高かった箇所、80 から 100 キロメートル圏内から、62 箇所を選んだ。

4. 調査の進捗状況

11 試料が化学分離中、23 試料が測定が終わったところである。

5. 今後のスケジュール

3 月中には、測定結果を文部科学省に報告する予定である。

